

ISSN 0910-2396

野鳥友刊

—北海道—

第 88 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 4 年 6 月 21 日



ウトウ 1991. 6. 23 天売島 撮影者 遠藤幸子



もくじ

私の探鳥地（野幌）	芹 沢 裕 二	2
北海道に舞い降りた迷鳥	山 田 良 造	3
バードヒアリングの楽しみ	田 辺 至	4
生振・茨戸川の野鳥（補説）	泉 勝 統	7
鳥民だより		7
平成四年総会報告		8
探鳥会報告		10
探鳥会案内		12

私の探鳥地（野幌森林公園）

久しぶりの早春探鳥会

芹 沢 裕 二

皆さん始めまして。……ご存知の方もいるかと思いますが、私は野幌森林公園の大沢口にある喫茶店^{ツバ}で、大仏さまのように座り、ある時には店の前でダイコンを売ったりする、そう……あの人なのです。本業は、一応学生であるため、毎年春頃の季節は、勉強・試験とで忙しく、森には入れず家で缶詰の状態なのです。今年は偶然に暇ができたので、探鳥会に参加しました。

当日は、深い雪も前日から降った雨により、道も固くなり歩き易く、絶好な日和になりました。愛護会と野鳥の会とも人数が少なかったために、合同の探鳥会ということになりました。

森に入ると、すぐにカラやケラたちが、我々を迎えてくれ好スタートでした。生憎、鳥の数は多くても種類の方はすくない状態でした。ユズリハ・桂コースと歩きましたが、歩けど歩けどもカラ・ケラのオンパレードでした。そう……、ユズリハコースの終点あたりで、クマゲラの声……という人が出ました。参加者は、その声のきこえる方に行き、その声を確認しました。しかし、種の数は余り増えません。とりあえず、大沢園地までと歩き続けました。園地についた途端、我々の頭上をオオタカが飛び、そしてレンジャクが飛びだし、そして沢山のトビが上空を舞ったのです。私はこの最後の鳥の出かたにしばしばびっくりしました。最後に「鳥合せ」をし、解散しました。久しぶりに、森林公園の早春の森を鳥とともに楽しませて貰いました。

〒069 江別市文京台南町3-12

野幌森林公園（4. 2. 16）

〔記録された鳥〕トビ、オオタカ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、クマゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、ウソ、シメ、ハシブトガラス、レンジャクsp 以上19種

〔参加者〕伊藤貴子、富田寿一、田中志司子、住友順子、香川稔、平井正人、柳沢信雄、新田祐子、犬飼弘、武沢和義・佐知子、戸津高保・以知子、小西良明、伊東裕二、神本司、野坂英三、吉田忠勝、渡辺喜久雄、伊藤秀平以上20名

〔担当幹事〕渡辺喜久雄、戸津高保



P.L. クマゲラ 4. 3. 6 新城 久

北海道に舞い降りた迷鳥たち (10)

山 田 良 造

今年の冬は、札幌市内のナナカマド街路樹にギンザンマンシコの群れが飛来した。手の届きそうな枝先で、赤い実をついばんでいた。

♂は赤色、♀は黄褐色でまるでピロードの衣を着ているようだ。これが白い雪に映えて、美しい風景でした。

今回は千歳市遠藤茂・幸子氏夫妻、美幌市草野貞弘氏、それに私の記録です。

34. ナキイスカ (アトリ科)

1991年1月13日、根室にナキイスカがきている情報で、私は千歳市佐藤幸典氏と出かけた。

この日の落石岬は、あいにく吹雪の天候でした。灯台に通じる木道を歩いて行くと、アカエゾマツの林には、アトリの群れが飛びまわっていた。

午後0時20分頃、灯台近くのアカエゾマツにナキイスカはいた。♂3羽、♀4羽の小さな群れが、アカエゾマツの種子を抱くようにして止まり、くい違いのくちばしを上手に使い、種子を採餌していた。

10分ぐらいして、突然ギーイと警戒啼きをし、一斉に50m先のアカエゾマツに飛び移った。私にとっては13年前、旭川で観察して以来のナキイスカでした。



ナキイスカ♀ 1991. 1. 13
根室市落石岬 山田良造撮影

ナキイスカは全長約15cm。♂の体はピンクをおびた赤色で、背中中は少し褐色。イスカに似ているが、ナキイスカの翼に2本の白帯がある。くちばしは黒く上下がくい違っている。足は黒色。♀は体が黄緑褐色。

スカンジナビア半島北部、ロシア平原、バイカル湖北

部、レナ川上流、アメリカ大陸北部などで繁殖し、冬はやや南に移動する。

日本には数少ない冬鳥として渡来する。イスカの群れに1羽~数羽いることがあり、本州、八丈島、北海道などに記録がある。

北海道では1953年1月網走、1965年3月札幌南の沢(へい死体)、1978年2月旭川見本林(このときは10羽ぐらい)、1978年3月根室落石岬、1983年3月根室春国岱、1990年11月森、1991年1月根室落石岬など。今年3月札幌北大構内イスカの群れに♂未確認情報あり。

35. ヒメクビワカモメ (カモメ科)

1992年4月16日、美幌市西3条南2丁目2-13草野貞弘氏は、雁を保護する会の仲間池内俊雄氏(埼玉県大宮市)と車で移動しながら、美幌市宮島沼周辺のマガンを観察していた。

午後1時30分頃、空知郡北村丸沼のほとり農道付近で、車のすぐ前に小型のカモメがいるのを観察した。



ヒメクビワカモメ 1992. 4. 16
北村丸沼 草野貞弘撮影

「おや、あれは何だ?」、「ヒメクビワだ、ヒメクビワカモメだよ」。シベリヤから戻ったばかりの池内俊雄氏は言う。

胸から腹が淡いピンク、背はうすい水色。半透明のガラス細工を思わせるような体を赤い肢が支えて、チョコマカと歩く。人を恐れる様子もなく餌をついばんでいた。

ヒメクビワカモメは全長約30cm、くさび形の尾をしたいちばん小さなカモメ。夏羽では背、肩羽、翼の上面は

淡灰色、くびには黒い輪がある。尾は白く、体の他の部分は淡いピンク色。くちばしは黒く、足は赤い。

冬羽では体のピンクは淡くなり、黒いくび輪もなくなり、後くびにわずか淡黒色の斑がある。

ヤナ川河口の西側付近で繁殖し、冬もその付近からアラスカ北部にかけてとどまっている。

日本にはまれな冬鳥として渡来する。1974年1月斜里、同年2月標津、1976年2月青森十和田、1984年1月斜里、1987年12月紋別、1989年12月10日紋別、1991年2月根室花咲、1992年4月北村などで内陸部の記録は北村が初めてである。



ベニバラウソ♂ 1991. 10. 30
羽幌町天売 遠藤幸子撮影

36. ベニバラウソ (アトリ科)

1991年10月30日、千歳市若草2丁目18-5 遠藤茂・幸子氏夫妻は、天売島に探鳥に出かけていた。

秋は海が荒れて、しばしば連絡船が欠航する。この日も欠航し島にとどまり探鳥をしていた。

午後1時過ぎ頃、島の墓地から1kmぐらい入った林道をご主人より少し遅れて歩いていた幸子氏は、秋の色が濃くなった道沿いのよもぎに赤い鳥が1羽止り、種子を採餌しているのを観察した。

ウソより少し大きく、頭は黒く、腹は紅のように赤い。ベニバラウソ?ベニバラウソに間違いはない。それがこのときの写真です。

ベニバラウソはウソの亜種で、全長約17cm(ウソは全長約15.5cm)。♂は頬、胸、腹は赤紅色で、大雨覆の先端は明瞭に白い。

カムチャッカ半島で繁殖し、北クリール、サハリン、アラスカなどに生息する。

日本には冬鳥として渡来するが少ない。本州、北海道で記録。

北海道では1964年11月札幌(へい死体)、1988年10月天売(このときは10羽ぐらい飛来)、1991年10月前記録など。未確認記録は豊富などある。

<参考文献>

日本産鳥類図鑑(東海大学出版会)、日本鳥類大図鑑(清棲幸保)、鳥630図鑑(日本鳥類保護連盟)、北海道地域別鳥類リスト(野生生物情報センター)、根室支庁管内鳥類リスト(高田勝)等参照。

〒003 札幌市白石区栄通16丁目4-13

バードヒアリングの楽しみ

岡 辺 壺

1人1人に個性があるように、探鳥の楽しみ方も様々です。健康保持をかねて野山を歩き、美しい鳥の姿と声で心身のリフレッシュをはかる人。鳥の識別に熱中する人。国外に出て鳥の見聞を広める人。特定の鳥の巣作り、子育て、越冬と四季の調査に情熱をもやす人。珍鳥の写真をおねらう珍鳥ハンター。探鳥から出発して自然保護に努める人。探鳥しながら山菜やキノコをとって趣味と実益をかねる人。探鳥もさることながら、探鳥会での人々の暖かい心のふれ合いに期待する人。

愛用のカメラで鳥の写真を撮るとの楽しみと、苦しみを満喫している人。吟行をかねて探鳥する人。鳥の絵をかく人。バードカービングで苦勞している人。鳥の美しい版画を

作る人。国内外の鳥類図鑑や図版のコレクター。鳥の落した美しい羽根のコレクター。いつか剥製にしようとした鳥の死体を冷凍室に入れて、奥さんに嫌われている人。新しい「ききなし」を考える人等です。

前おきが長くなりましたが、鳥の声を楽しみ、それを録音するバードヒアリングもなかなか楽しいものです。鳥の録音は鳥の写真をとることより易しいものです。そのわけは姿を見つけなくても声だけはよくとれるからです。鳥の声の録音には3つの楽しみがあります。

1つ目は探鳥に行く前に出会える鳥を予想し録音に行く時刻を工夫する楽しみです。2つ目は現地で声を録音している時の楽しみと苦しみ。3つ目は帰宅してから録音

したテープをきいたり、テープの声の索引を作り、美しい声だけを集めて編集する楽しみです。考えてみると写真をとる楽しみと同じですね。

先輩の皆様はもっと優れた方法を御存知と思いますが、私の乏しい経験の中から鳥の声の録音のコツをまとめてみました。

1. 手元のラジカセでまずやってみよう。

私達は録音のプロではありません。記録程度の録音を心がけて、安いテープで気軽にスズメでもカッコウでもとってみましょう。初めは声の大きいカッコウ、ウグイス、クログミヤキビタキをとると失敗しません。ここで音質を1ランク上げるために、単一指向性の外部マイクを買って（自宅にカラオケのマイクがあればそれで充分です。ラジカセの内蔵マイクで録音すると良い音にならない。）録音すると更に良い音になるでしょう。そこで経験を積んでラジカセで満足できなかった人は、後に記します機材を入手してはどうでしょうか。初めから高価な機材をそろえないと録音ができないと考えるとおっくうになってしまいます。

2. テープをけちるな。

一度、録音を初めたら雑音や鳥のなきやむのを無視してテープを回し、3分以上とり続ける。テープの雑音は帰宅後編集する時除けます。雑音のする毎に録音をやめて良い音だけを秒単位で集めようとしたり、なかなか鳴かないからといってテープをとめ、鳴き出してからあわててテープを回してもタイミングが合わず失敗します。

又、テープの予備をいつも持っていること。最高のさえずりを前にしてテープがなかった時の無念さは御想像の通りです。

3. 雑音は小さく、目的の鳥の声は大きく。

雑音をいかに小さく、少なくし、いかに目的の鳥の声を大きくははっきりとるかに気を配ることが、声の録音の最大の秘訣です。機材にお金をかけることよりも、「雑音対策」と「目的の声を大きくとる」ことに注意します。

(イ) 雑音対策

風の音は「ポコポコ」と録音されます。弱い風はマイクに風防（ウインド・スクリーン）をつけたり、更に、パラボラ集音機全体にバンティストッキングをかぶせると効果的ですが、根本的な対策にはなりません。風のない日をねらって足繁く通いましょう。

大きな「ガサ、ガサ、ゴト、ゴト」という音は自分の出した雑音です。録音中は体を動かさない。マイクをもつ手は手袋をする。雑音の多い都会で録音するならば、日曜日の早朝にとるとか、道路や人家からはなれてとる。

(ロ) 目的の鳥の声を大きくとる方法

野鳥は敏感で声を大きくとろうと近づくとすぐ逃げ

ます。遠くの小さな声を大きくしようとしてテープレコーダーの録音レベルをあげますと、雑音も大きくなり良くありません。この場合は、カメラの望遠レンズに相当する「パラボラ集音機」と「単一指向性のマイク」を使うと、やや遠くからでも目的の鳥の声を大きくとれ、雑音は小さくなります。しかし、パラボラ集音機は万能ではありません。鳥に逃げられない距離（約15m）まで近づき、テープレコーダーの録音レベルをさげていき、イヤホンで騒音（サーというグラウンドノイズ）が殆んど聞えなくなって、目的の声が大きく聞えている時、良い音にとれています。これが最も良い方法です。

4. バードウォッチャーも歩けば珍鳥にあたる。

犬も歩けば棒にあたるように、季節を変え、一日の訪れる時刻をかえて、足繁く、同じフィールドに通うと新しい発見があり、珍鳥にめぐり会う機会もふえます。

5. 鳥を追いかけずに、くるのを待つ。

鳥のさえずりを眺めていると、カラオケで自分の美声に酔っている人のように、彼らは全力で一生懸命に歌っています。そこへ異様な人間が近づくと恐れて逃げ出



PL オオルリ 柳沢 千代子

します。この逃げた鳥を追いかけはいけません。追えば追う程、歌は下手になるし、逃げ足も早くなります。この時は、動かないで気長にそこで待っていると、再び上手に歌ってくれます。チャンスを座って待つ気の長さが大切です。

6. 早朝が良い声をとるチャンス。

昼間はあまり上手に鳴きません。夜が開けきらぬうちから、鳥の集まる所で待っていると美しい声のとれます。夜しか鳴かない鳥は鳴く場所を事前にしらべて、夕ぐれから準備して待ちます。

7. マイクやレコーダーの電池ぎれに用心しよう。

美しい声を目の前にしながら、電池ぎれで録音できないくやしきは忘れられません。私ははるばる釧路湿原までツルの録音にいて、マイクの電池ぎれで泣きました。電池の予備を常にもつこと。

8. 録音ずみのテープは必ずレコーダーからはずして持ち帰る。

録音したはずのテープの音が消えていたことがありました。テープを入れたままのレコーダーが輸送中に録音状態になって、貴重な音を消していたのです。

9. 録音テープの質を考えて選ぶ。

テープはメタルテープが最良ですが、ノーマルテープの高性能のものが安価で使い易い。不要になった録音ずみのテープを再度録音に使うことはあまり勧められません。微妙な音質の劣化が気になります。自分の好みのメーカーのテープの種類をきめたら、それを一貫して使うこと。いろいろのテープを混ぜて使うと、テープ編集のとき音質のちがいが気になります。

10. 鳥の声の録音のプロとアマのちがい。

プロは優れた技術と機材を使ってレベルの高い作品を作りますから、アマは到底かなわないと思われがちですが、そうでもない面もあります。それは偶然性という面です。写真でもいえますが、足繁くフィールドに通っている間に、プロでもとれない珍鳥の作品をものにした経験をどなたでも1つ位はもっているでしょう。「オレの作ったこの作品はプロのあの作家のものよりいいぞ」と1人で納得した時の晩酌の味はいかがでしたか。



PL キビタキ 柳沢 千代子

11. テープ1本分の録音が終わったらすぐ整理する。

写真でも沢山のネガフィルムの中から必要な画面を探すのは大変です。録音テープの場合は、沢山のテープの中から編集に必要な音を探し出すので更に大変です。現地で録音したらすぐその場で声の主の鳥の名をアナウンスしておきます。又、1本分のテープの録音が終了したら、テープの初めから聞き直して、テープカウンターの数値とその声の主の鳥の名をノートに記録（音の索引・Qシート）します。後でその記録を見るとほしい鳥の声がどのテープのどの辺に入っているかすぐ分かります。これを怠ると未整理のテープが山となり、宝の山のはずが屑同然となります。そういう人は多いようです。

12. マスターテープを作る。

映画やビデオの編集と同じく、録音テープの編集は楽しいものです。1本のテープの録音時間が60分でしたら、それに合わせてテープの音の筋立て（構成）を作ります。その構成に従って入れる鳥の数をきめ、次に、1種類の鳥の声を何分間入れるかきめます。次に先程の音の索引を使って鳥の声を探しだし、構成に従ってテープにダビングしてマスターテープを作ります。マスターテープは大切に誰にもあげられません。プレゼントするのは、マスターテープからもう一回ダビングしたものです。この段階で生の音のテープから2回ダビングをしたことになります。3回以上ダビングすると音がぼけ、シャーというテープノイズがふえて音質と明瞭度が急に悪くなります。

どんなに美しい声でも単調なものはあきてきます。同じなき声は普通1分間、長くて2分間以内で別の鳥の声にします。この編集の段階が大切で、マイクロホンミキサーを使って鳥の声に別のテープの小川のせせらぎの音を入れて合成したり、演出効果を最も楽しめる時です。

野生動物写真家の久保敬親さんは「自然の中に身を置いて、鳥たちと向き合っていると私はいつも“一期一会”という言葉を思います。この一瞬しかない鳥との出会い、その一瞬のために、長い時間が流れます。だからこそ、その一瞬を大切にするんですね」と言っています。

13. 参考までに市販の録音機材と参考書をあげます。

- A. テープレコーダー
 - ソニー, WM-D 6 C (59,000円)
 - ソニー, TC-D 5 M (97,000円)
 - ソニー, TCD-D 3 (98,000円)
 - B. パラボラ集音機
 - ソニー, PBR-330 (1個の価格9,900円)
 - C. マイクロホンミキサー
 - ソニー, MX-10 L (17,000円)
 - D. 参考書
 - (1) 玉井和雄著「生ログの本」広齊堂
 - (2) 中坪礼治著「趣味の野外録音」
日本放送出版協会
 - (3) 「テープデッキと録音」
電波科学、1973年6月、臨時増刊
日本放送出版協会
- 〒072 美唄市西1条南4丁目3-8

先87号で「生振・茨戸川の野鳥リスト」を出した。早速ベテランの方から「4年間の観察なので、毎月どの位観察日をもったか、具体的に示してみても……」という助言を戴いた。なる程、狭い地域で個体数の少ないところだからと考へた。不備なリストを提示して申訳ないことをした。参考になるかどうかと思ひ乍ら、観察日数を野帖から拾ひあげてみました。

〔観察日数の一覧〕

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
88年度						10	8	8	16	11	12	19
89年度	8	7	9	6	13	8	7	8	3	9	7	6
90年度	13	6	9	4	12	5	8	5	8	10	7	6
91年度	7	8	8	6	7	6	3	8	17	7	17	18

(註) 1) 年度は4月～3月としている。

2) 月の観察日数は、平均で7～8日程度で、それより極端に少い月は、親族の不祝儀や膝故障のための通院。

3) 1～3月にかけて日数の多い場合

- ・オオホシハジロ、アメリカコガモ、ツクシガモの越冬観察
- ・91年末はクマガラの観察……などによる。

生振地区という限定された地域の観察なので、夏・冬鳥の通過期の観察が大事なことは言うまでもない。然し3月～6月・9月～11月の頃になると、ガン類やシギチドリ類、また海鳥も見たいという衝動にかられる。つい宮島沼や小樽港などに足を向けなくなり、多忙を極める。

幸いにも、91年から共同観察者として新城久さんと一緒に歩く機会が増えたので、更に密度の濃い観察をし、もっと精細なリストにする努力をしなければと考へている。

〒002 札幌市北区篠路2条3丁目



◆新年懇談会の報告

新年懇談会が1月11日(土)札幌市婦人文化センターで開催されました。

前半は、北大苫小牧演習林長の石城謙吉先生をお迎えし、講

演をしていただきました。

先生が関心を持っているスズメ類のお話や、日本で今後、イエスズメの侵入があるかどうかなど、興味深いお話をしていただきました。

また、先生の勤務される苫小牧演習林内の様子をスライドにより説明していただきました。

後半は、恒例の会員が持ち寄ったスライドの映写を行いました。今回は、8人の方のスライドが写され、外国や国内にと活発に探鳥旅行したときのものや、この1年間の撮影の成果が披露され、それぞれみな力作ぞろいでした。

講師の方の人気と天気も良かったせいか、これまでにない70人と多くの会員が参加し予定の時間をオーバーして終了しました。

◆野鳥写真展の開催

今年も好作品揃いの写真展が5月7日～5月27日まで、拓銀と北電の御好意により開催致しました。

〔写真提供者氏名〕

- 千葉 広 バン・タンチョウ
- 佐藤 勇 キジバト・コウライキジ
- 渋谷信六 オオハム・フクロウ
- 遠藤 茂 ヤツガシラ・キレンジャク
- 遠藤幸子 ウトウ・タンチョウ
- 難波 茂 オンドリとマガモ・ヨシガモ
- 野坂英三 ノビタキ・ルリビタキ
- 山本 一 ハンプトガラ
- 酒井一光 オンドリ・ヤマセミ
- 山田良造 ヤツガシラ・キマユツメナガセキレイ
- 石橋孝継 ヤマセミ・カワセミ
- 柳沢信雄 コクガン
- 佐藤幸典 ハマシギ・ケイマフリ
- 若林信男 シロフクロウ・シロフクロウ
- 香川 稔 シマエナガ・ハチジョウツグミ
- 小堀煌治 コクガン・カワガラス
- 富田寿一 タンチョウ・タンチョウ
- 竹内 強 ユキホオジロ

平成4年度総会報告

日 時：平成4年4月18日(土)午後2時～4時

場 所：札幌市民会館

柳沢会長のあいさつのあと、議長に小堀煌治氏を選出し審議が行われ、原案どおり可決された。

<議 事>

1 平成3年度事業報告

(1) 総 務

ア 新年懇談会の開催

(4.1.11、札幌市婦人文化センター)

イ 野鳥写真展の開催

・北海道電力エレナードギャラリー

(3.4.24～3.4.30)

・たくぎん自動サービスフロア(3.5.1～5.18)

ウ 愛護会独自のカレンダー作製

エ 野鳥だよりの発送(84～87号)

オ 定例幹事会の開催(5月を除き毎月1回開催)

カ 傷害保険の更新

(2) 広 報

野鳥だよりの発行(84～87号)

(3) 探 鳥

探鳥会の開催(19回、742名)

2 平成3年度会計報告

3 平成3年度会計監査報告

佐々木武巳(野村監事死去、大坊監事が病氣療養中のため、監事代行)から、適正に執行されている旨の報告があった。

4 平成4年度事業計画

(1) 総 務

ア 新年懇談会の開催(1月)

イ 野鳥写真展の開催

・北海道電力エレナードギャラリー(5.6～5.12)

・たくぎん自動サービスフロア(5.13～5.27)

ウ 野鳥だよりの発送(88～91号)

エ 定例幹事会の開催(毎月1回)

平成3年度決算書

(収入の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 (A-B)	摘 要
繰越金	109,792	109,792	0	
個人 会費	666,000	555,000	111,000	444人(平成4年度以降の前受分を含む)
団体 会費	9,000	13,500	△ 4,500	2団体
寄付金	7,775	10,000	△ 2,225	佐々木氏他
参加費	62,000	40,000	22,000	新年懇談会、 藤の沢探鳥会
売上金	404,325	400,000	4,325	カレンダー、 野鳥だより、 ネクタイピン他
雑収入	14,306	9,708	4,598	利息
合 計	1,273,198	1,138,000	135,198	

(支出の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 (A-B)	摘 要
印刷費	505,730	500,000	5,730	野鳥だより (4回発行)他
通信費	160,504	170,000	△ 9,496	だより発送費他
会議費	84,078	100,000	△ 15,922	幹事会、総会等
消耗 品費	9,620	20,000	△ 10,380	コピー、 事務用品
交通費	57,500	65,000	△ 7,500	だより発送、 幹事の交通費
報償費	91,480	110,000	△ 18,520	事務所謝礼他
雑 費	57,091	73,000	△ 15,909	障害保険、 写真展他
その他	102,137	100,000	2,137	カレンダー作製
合 計	1,068,140	1,138,000	△ 69,860	

(収支の部)

(収入) (支出) (残高)
1,273,198 - 1,068,140 = 205,058

内訳 会費仮受分 129,000
繰越金 76,058

- オ 傷害保険の更新
- (2) 広 報
野鳥だよりの発行 (88~91号)
- (3) 探 鳥
探鳥会の開催 (19回)
(9月の室蘭を鶴川に変更)
- 5 平成4年度予算
- 6 そ の 他
会創設以来20年が過ぎたことイベント企画や絵葉書・タイピンの販売方法等について提案があり、幹事会で検討していくこととした。
- 7 役員選出
野村梧郎監事死去のため、佐々木武巳氏を監事に選出した。
なお、総会後の幹事会において、代表幹事と各幹事の担当を定めた。
- 会 長 柳沢信雄
副 会 長 小堀煌治

- 監 事 大坊幸七、佐々木武巳
- 代表幹事 白澤昌彦
- 会計幹事 ○大町欽子、霜村耕一
- 総務幹事 ○渡辺紀久雄、渋谷弘子、清水朋子、野坂英三、三船幸子、村野紀雄、
- 探鳥幹事 ○井上公雄、大野信明、千葉 広、戸津高保、富川 徹、富田寿一、中野高明、永島良郎、矢野玲子、山田良造、渡辺俊夫
- 広報幹事 ○泉 勝統、赤石誠二、今野 弘、竹内 強、白澤昌彦、武沢和義、道川富美子
- (○印は各担当代表者)

平成4年度予算書

(収入の部)

項 目	前年度 予算額	予算額	摘 要
繰越金	109,792	205,058	会費仮受分を含む
個人会費	555,000	630,000	1,500×420人
団体会費	13,500	13,500	4,500×3団体
寄付金	10,000	10,000	
参加費	40,000	50,000	新年懇談会、藤の沢探鳥会
売上金	400,000	250,000	野鳥だより、ネクタイピン他
雑収入	9,708	9,442	利息
合 計	1,138,000	1,168,000	

(支出の部)

項 目	前年度 予算額	予算額	摘 要
印刷費	500,000	550,000	野鳥だより(4回)
通信費	170,000	170,000	だより発送費 他
会議費	100,000	90,000	総会・幹事会 他
消耗品費	20,000	10,000	コピー、事務用品
交通費	65,000	60,000	野鳥だより発送、探鳥会幹事用等
報償費	110,000	90,000	事務所謝礼 他
雑 費	73,000	60,000	障害保険、写真展 他
その他	100,000	0	カレンダー作製
予備費	0	138,000	
合 計	1,138,000	1,168,000	

※ 会員数

項 目	2.4.1	3.4.1	4.4.1
個人会員数	432名	432名	423名
団体会員数	3団体	3団体	3団体



円山公園探鳥会

4. 3. 1

野坂英三

今冬は暖冬であった。というより、一昔前より最近
は暖冬が続いている。炭酸
ガス等による地球温暖化の

傾向なのか、あるいは間氷期の温暖に向う途中なのか、
はっきりは、私にはわからない。

さて、小春日和の続いた3月1日、定刻、集合場所に
鳥好きの人々が集まりました。今冬は、ギンザンマシコ
が多く見られたとの事で情報話や写真等に花が咲いてい
ました。

探鳥会が始まり、カラ類やエナガの混群にカケスも、
ちらほら見えます。開拓神社前のエサ台には、カラ類が
飛びかい、特にヤマガラが多い様です。少し離れた枝に
は、カワラヒワやシメが羽を休めていました。

まもなく小鳥が居なくなったと思ったら、誰かが「ハ
イタカ」と上空を指差した。見上げると上空をハイタカ
が、悠々と舞っている。なるほど、さすがに小鳥達が一
番敏感なのが、わかりました。

神宮や円山の森を歩くが、お目当てのアトリやウソが
現れず、「この辺にいるはずだが……」と、木を見上げて、
ため息をつく、そのかわり、キツネが円山の斜面を
トコトコ歩いているのが見えました。

シジュウカラのさえずり等、春がすぐそこまでの感じ
の探鳥会でした。

〒001 札幌市北区北32条西3丁目2-5 芳明MS

〔記録された鳥〕ハイタカ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲ
ラ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュ
ウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、マヒワ、
シメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラ
ス、ドバト 以上19種

〔参加者〕今野弘、今泉秀吉、柳沢信雄、大町欽子、竹
内強、山田甚一、鎌田玲子、矢野玲子、大西典子、難波
茂雄、野坂英三、武沢和義・佐知子、久田伸一、戸津高
保・以知子、富田寿一、野口正男、三船喜克・幸子 以
上20名

〔担当幹事〕武沢和義、矢野玲子

ウトナイ探鳥会に参加して

4. 3. 22 吉田 司

いつの日からか鳥の姿の美しさ、色彩の豊かさにひか
れ、折があったらバードウォッチングを始めようと思

つつ、そのチャンスに出会わないで居りました。第二の
人生を生れ故郷でと30年振りに戻った札幌で、偶々目に
したのが新聞の案内で早速夫婦で参加させて戴きました。

ベテランの皆様を教えて戴き乍ら、セットされた望遠
鏡をのぞいた時の感激は忘れる事が出来ません。

飼い馴らされている動物園や公園でみる鳥達と違い、
生き生きとした生態が望遠鏡を通して観察され、無心に
遊んでいる水辺の鳥達の姿は色、形ばかりでなく表情ま
で見える様で素晴らしい感動を覚えます。毎回見ている
カラスにもハシブトガラス、ハシボソガラスが居る事を
初めて知りました。これを契機に女房と共通の趣味とし
て、自然に親しみ乍ら見聞を拓げて行きたいし、又野鳥
を通じて多くの仲間とのふれあいが出来たら素晴らしい
事だと思っています。

さて、ウトナイ湖で白鳥がみられると聞いてドライブ
を兼ねて雪のちらつく札幌を出発してから1時間余りで、
雲間からもれる陽光が湖面にこぼれる目的地へ着いた。
さて白鳥は、と見渡すと岸辺で餌をついばんでいる鳥の
群れがいる。早速双眼鏡を手にしてみたがバードウォッ
チングの右も左も知らない小生には何も見当たらない。

噂の白鳥はこの岸辺の鳥達かと（実はオオハクチョウ、
コブハクチョウの見分けがつかず同じ鳥と思っていた）
用意して来た餌をまき乍らこんな近くで観察出来るの
なら双眼鏡などいらんわいとつぶやく。そもそもこれが
素人の何とやらで、探鳥会が始まってから先輩に勧めら
れるままセットされた望遠鏡をのぞいて驚いた。いた、
いた、肉眼では見えない遙か遠くにオオワシ、オジロ
シの雄姿が。そして周辺にヒシクイの群れが人間共に観
られているとは露知らず事もなげに翼を休めている。

こんな自然の姿を楽しめる事、そして探し求める野鳥
が望遠鏡からまのあたりに観察出来る事こそ、バードウォッ
チングの醍醐味なのかな、と云うのが初参加の感想であ
る。予定を変更して移動した北大演習林では、ウトナイ
湖同様数多くの野鳥が観察されたが、小生の眼に強烈に
焼付いたのはオシドリ、アカゲラ、オナガガモ、ハシビ
ロガモだけ。いろいろ親切に教えて下さった皆様にはゴ
メンナサイ。ほとんど印象に残っていないと云うのが当
日の結果でした。これからは、図鑑と首っ引きで覚えて
行かねばと云うのが初参加で得た教訓である。そして寒
かった、でも楽しかった、これが本音です。

〒064 札幌市中央区円山西町1-7-22

〔ウトナイ・記録された野鳥〕アオサギ、トビ、オジロ
ワシ、オオワシ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、ヒ
シクイ、マガン、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、キ
ンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、カモメ、ハク
セキレイ、ハシブトガラ、シジュウカラ、スズメ、ハシ
ボソガラス、ハシブトガラス 21種

〔北大演習林・記録された野鳥〕トビ、ノスリ、オンドリ、ヒドリガモ、マガモ、オナガカモ、ハシビロガモ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、カシラダカ、アトリ、シメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 21種

〔参加者〕佐々木武巳、大村正道、佐藤勇、久田伸一、大町欽子、山田良造、吉田司、吉田行子、柳沢信雄、戸津高保・以知子、竹内強、野坂英三、浜田強、広川淳子 15名

〔担当幹事〕山田良造、竹内強

宮島沼探鳥会に参加して

4. 4. 19 若林信男

4月19日、今にも雨が降りだしそうな天気、時間を間違えて1時間も早く宮島へ来てしまい、寒さをこらえながら他の会員よりも早くウォッチング開始。トイレに通うこと3回、宮島へ来る車の中でのウーロン茶が効いているようだ(好きな鳥達を見るのだから贅沢は言えない)。

素人の方々に(失礼)色々質問され説明しているうちに、愛護会の人たちが到着し、世話人の方の説明と星子氏の観察ポイントや珍しい鳥の説明などをして頂き、早速ウォッチング開始。私は、都合により約1時間ほどしか参加出来なかったが、会員と一般の人たちが交じり合っただけ楽しんでいる人々の姿を見ていると何かホットする気持ちを抱き宮島を後にしました。

また昨年暮れから、岩見沢・北村・美唄等の周辺地域で、シロハヤブサ・シロフクロウ・シロオオタカ、等の珍しい鳥が観察され、大変素晴らしい地域です。宮島沼とその周辺地域の自然を是非守っていききたいものです。

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オジロワシ、オオハクチョウ、コハクチョウ、ヒシクイ、マガン、シジュウカラガン、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、カワアイサ、カモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、アカモズ、カワラヒワ、ダイサギ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 以上25種

〔参加者〕道場優、大沼裕、大沼孝子、吉田司、吉田行子、井上公雄、大西典子、鎌田玲子、山田良造、川守田順吉、柳沢信雄、野坂英三、星子廉彰、若林信男、佐藤勇、梅木賢俊、富田寿一、浜田強、広川淳子、永島良郎 以上20名

〒068 岩見沢市美園1条2丁目

野幌森林公園探鳥会に参加して

4. 5. 3 猪狩正義

新聞記事を見て、家族全員で初めて参加させていただきました。

我家は、真駒内の五輪団地に住んでいますが、ベランダのすぐ前にケヤキの木があります。近くの地下鉄真駒内駅の裏には通称桜山の林が残されているせいか、このケヤキの木には、一年を通して様々な鳥がやってきます。アカゲラが来たこともあります。10メートルも離れていない位置ですから、我家の7倍の双眼鏡でも、十分にその姿かたちを捕えることができます。が残念ながら、大半の鳥の名前がわかりません。そこで探鳥会に参加して、鳥の名前を憶えようと思ったのが今回の目的のひとつです。

これまでも、自然観察会には何度か参加し、木や花などの観察はしたことがありますが、いかんせん今回は対象が動きの素早い鳥ということで、案内の方に指示された方向を見てもなかなか鳥の姿を捕えることができません。それでもフィールドスコープでのぞいたり、持参の双眼鏡で姿を捕えることができた鳥は結構な数にのぼりました。その中でも印象的だったのは、初心者特有の心理かと思いますが、大きい鳥—キンクロハジロ、アカゲラなど—だったようです。(家族全員)

特徴的な動き方をするキバシリや声に特徴のあるヒヨドリも見ましたが、その姿がどんなだったか、既に定かではありません。人間の記憶力には限界がありますから、一回の探鳥会で、種類の鳥の名前を憶えるということでは十分なのだと思います。

それよりも、森の中を鳥を見ながら歩くと、知らず知らずのうちに結構な距離を歩いています。探鳥会参加のふたつ目の目的も十分に果たすことができました。

弁当もおいしかったし、天気が良ければもっとよかったのに!

最後に家族の感想をひと言ずつ。

不満そうに「鳥はどうしてオスの方がきれいなんだろうね」(妻 きよ子)

「アカゲラがつついて作る穴は、ずいぶん深くて大きいんだね」(長女 のぞみ・小6)

「サンショウウオの卵を見つけたし、かえるの卵にさわったよ」(次女 万由子・小1)

〒005 札幌市南区真駒内緑町4丁目1-21-509

〔記録された鳥〕カイツブリ、アオサギ、オンドリ、マガモ、キンクロハジロ、キジバト、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、トラツグミ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、クイタダキ、オオルリ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ニューナイズメ、カケス、ハシブトガラス 以上28種

〔参加者〕志田博明・政子、渋谷一郎・幸子、玉田義一・紀美子、北村敦・富繁子、佐々木晴子・富美子・晴美、武井悠・直子、竹中昭雄・悦子、永島良郎・トキ江、林信次・貞子、猪飼正義・きよこ・のぞみ・万由子、渡辺紀夫・美知子、松本輝夫・定子、尾崎和子・あかり、香川稔、右近和子、宇野忠雄、家田義典、鎌田玲子、大西典子、萩野賢一、菅みづほ、今野泉、佐々木武巳、千葉広、吉田忠勝、柳沢信雄、水谷真理子、野坂英三、辻信雄、澤田芳雄、笹岡留美子、鈴木克司、真田範子、佐々木儀一、斉藤朗子、川守田順吉、佐藤勇、今野弘、佐々木友子、他氏名不詳5名 以上合計60名
〔担当幹事〕永島良郎、野坂英三

千歳川周辺一泊早朝探鳥会

92.5.9~10 柿崎敦子

5月9・10日。どちらかという朝に弱い私達家族4人は、「ヤマセミ、アカショウビンに会えるかも」という魅力的な言葉に誘われたのと、子供達を早朝の空気にふれさせたいという思いから今回参加させていただきました。

九日の夜はユースの温泉と皆さんの興味深い鳥のお話しを楽しみ、自宅より持参した大きな目覚まし時計を三時にセットし、きれいな月を見ながら眠りにつきました。

朝は寒いながらも、雪の残る恵庭岳がはっきりと見えるほどの好晴で、ひと安心。世話人の方の車に同乗させていただき、四時十分頃千歳川のサケ・マス孵化場の近

くに到着。下車するとすぐ目の前の木の枝にホオジロ…。川霧に見とれていると、カワセミが背の瑠璃色をきらめかせて飛んでいきます。今日は色々見れそうと思うと同時に頭にうかんだのが、「千歳川放水路反対!!」でした。

さて、うちの子達(小4、小6)というと、寒さと眠たさで初めのうちは、半分凍った様な状態でしたが、道々の可憐な花々、小鳥達のさえずり、プロミナーを通して見える鳥たちの素晴らしさに段々と眼も覚め、朝食の頃にはやわらかな陽の暖かさも手伝ってすっかり元気になっていました。五感を通して朝が明けてゆくのを体験できた様でした。

今回は赤、青、黄、黒、白と色鳥々、45種ほど確認でき、千歳川流域の自然の豊かさと、愛護会の皆様の暖かいお心づかいにふれた本当に素敵な旅でした。ありがとうございました。

〒061-32 石狩町花川北二条五丁目

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、ノスリ、オシドリ、マガモ、キンクロハジロ、キジバト、ツツドリ、ヤマセミ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、カワガラス、ミソサザイ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、他5種で計45種。参加者51名。



〔鶴川〕平成4年8月23日(日)
平成4年9月6日(日)
鶴川河口は本道にとって、旅の途中のシギ・チドリ等が多く見られる数少ない干潟です。牧場内のちょっとした水溜りにも

珍鳥がいるかもしれません。長くつ使用が無難です。
集合=9:30 JR鶴川駅前
交通=道南バス(浦河行)、札幌駅発8:00、鶴川駅通下車

〔鏡沼・宮島沼〕平成4年10月11日(日)
宮島沼は、ガン・カモ類の大群が越冬地に行く途中しばらく滞在します。マガンが採食の為、田畑への行き帰りの群が、すぐ上空を飛び壮観です。
鏡沼は、手頃な大きさの沼で、真近にカイツブリやカモ類を観察できます。
集合=10:00 大富会館前

交通=中央バス、岩見沢ターミナル発(月形行)大富農協下車、徒歩15分

〔野幌森林公園〕平成4年10月18日(日)

カツラの甘い香りや木々の紅葉の中、おなじみカラ類やキツツキ類等を観察します。
集合=9:00 大沢口駐車場入口
交通=夕張バス(文京台線)新さっぽろ駅発、大沢公園入口下車、徒歩5分

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成4年9月20日(日)
平成4年10月4日(日)
集合=9:00 大沢口駐車場入口
○いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行きます。
○交通機関は変更等がありますので、利用される方は、各自で再調査をお願い致します。
○昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。
○探鳥会の問合せは、011-831-8636 戸津宅まで。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287
☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465